

(様式1)

令和7年度 学校経営計画書

金沢市立工業高等学校
校長 西東 直人

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
- (3) 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力及び社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 「選ばれる学校（中学生）」を目指す。
- (2) 在校生が「本校に入学して良かった」と実感できる学校生活の充実
- (3) 学習指導において、習得した知識や技能（技術）を活用し、表現力の育成に努める
- (4) 生徒指導において、主体的な選択・決定を実行できる判断力の育成に努める
- (5) 落ち着いた学校生活にする勘所～教育の勘所～

(様式2)

重点目標		具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
3	学習指導において、習得した知識や技能(技術)を活用し、表現力の育成に努める	① 学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、授業以外の学習の実施を継続的に調査し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 授業以外でも学習に取り組む生徒の割合を50%以上にする。	授業以外でも学習に取り組むことができた。 A 取り組むことができた B 十分とはいえないが取り組むことができた C 少し取り組むことができた D 取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 37% B 39% C 21% D 3% (アンケート結果)	A+Bの結果が昨年度と比べ増加し、75%を超えた。Teams等を利用した課題や宿題の提示、提出など、ICTを利用した学習活動がさらに広まり、学習に取り組む機会を増やしている。ICTを利用した支援がさらに定着するよう取り組んでいきたい。
		② 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有を図る。赤字を複数科目保持する生徒については、担任等が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良に対して、生徒及び保護者に面談等を通じた確認を行い、早期の対応に取り組む。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	教員アンケートを実施する。	A 12% B 65% C 21% D 2% (アンケート結果)	成績システムの活用が広く定着しており、今年度もA+Bの結果が70%を超えている。しかし、一方でCやDの結果が徐々にではあるが増加傾向にある。生徒や保護者にさらに段階的に伝えられるようにするなどを考えていく。
4	生徒指導において、主体的な選択・決定を実行できる判断力の育成に努める	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	傘さし運転ゼロ運動時、毎回調査する。	D 15人以上である 22人 1年 4人 2年 9人 3年 9人	傘さしは0人であったが、カッパ未着用が22人であった。学年が上がるにつれ、このぐらいの雨なら大丈夫だろうという安易な判断をしている生徒が目立った。合羽を着ないことで起こり得る事象をしっかりと理解させ、合羽着用の必要性を伝える指導が必要である。
		② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	9月末に集計する。	B 6人～10人未満	今年度は複数人で使用している場面が多みられた。気の緩みやルールの理解不足などが原因であった。なぜこのようなルールが定められているのかをしっかりと理解させ、日常生活を送らせる必要がある。
		③ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	各科長報告	【機械科】A 【電気科】A 【電子情報科】B 【建築科】B 【土木科】A	【電子情報科】B はんだづけで軽微なやけどがあった。軽微であるが重なるると大事故に繋がる可能性がある。安全教育の徹底、KY訓練、ハイレンピの法則の理解に努めたい。 【建築科】B 木材加工中に刃物での怪我が1件あった。整理整頓、集中して取り組める作業環境の整備、安全な作業姿勢を伝えることを重視して安全教育を行う。
		④ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談ができる。 A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 41% B 47% C 8% D 4% (アンケート結果)	今年度も昨年度同様、A・B合わせて88%と保健室や相談室を利用できたようである。目標は達成できたが、C・Dの利用できないと答えた生徒に対しても取りこぼしがないよう注意していきたい。
		⑤ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による	A 98%以上 100%	求人票数は4,000件を超え、就職環境は良好である。一方で、地元企業や地場産業の魅力を中心に伝えられておらず、地元就職率の向上が課題である。今後は、企業見学や講話等を通して地域理解を深め、主体的な進路選択につなげていく。
			【成果指標】 進学決定率	進学決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	3月時点での実施による	A 98%以上 進学決定率 100% 103人/103人	一人一人のより良い進路実現を目指していきたい。そのためには、中期的・長期的な進路活動の計画が必要である。また、前年度卒業生の進路実績はもちろんであるが、それだけにとどまらず、選択肢を広げた中で自分より合った進路実現を目指しているようにロングホームなどの時間を過ごしている。
⑥ 図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信をする。	【成果指標】 一日の平均来館者数	一日当たりの来館者数を平均30人以上を目指す。 A 昨年度、より上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、取り組みの見直しを行う。	年間来館者数を集計する。	A 昨年度、より上回った	昨年度より上回った。授業による調べ学習での使用回数や放課後のテスト勉強での使用回数が増えたのが要因だと考える。今後もこのような使用目的で来館者数を増やしていくことでより活気ある図書館になると考える。		
5	落ち着いた学校生活にする場所～教育の拠点～	① 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	毎日の集計により判断する。	B 1人～2人未満 1. 53人	今年度は、1年生で遅刻者が多くみられた。時間を守ること、生活習慣をしっかりと身につけて体調管理を徹底することなど、社会人に必要な力の意識不足が目立った。クラスや、学校全体でなぜ遅刻はいけないのかを理解させる必要がある。
		② 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	生徒アンケートを実施する。	A 80%以上 しっかり挨拶できた 76% だいたい挨拶できた 22% あまりできなかった 1% ほとんどできなかった 1% (アンケート結果)	自ら挨拶をする生徒は多く見られるようになったが、大きな声でという生徒は多くはなかった。ただ、声は小さくても、会釈や相手の目をみて挨拶をする生徒は多くなってきており、今後も継続した指導が必要である。
		③ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B だいたい行うことができた C あまり行わなかった D ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	生徒アンケートを実施する。	A 82% B 16% C 1% D 1% (アンケート結果)	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。